

第 22 期 pES club シナリオ 5

2023 年 5 月 7 日

東京医科歯科大学病院 臨床研修センター

片桐 碧海

社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは名羅手部総合病院の総合診療科をローテーションしている 2 年目初期研修医です。

伊賀思衣さん（86 歳女性）は肺炎で入院し、抗菌薬での治療を終え、現在退院調整中です。退院に向けて、今後の治療方針について指導医の楠力雷先生と確認しています。

楠力「伊賀さん、これからどうしようか」

あなた「そうですね。もともとは特別養護老人ホームにいらっしゃいましたが、今回の入院で ADL が落ちてしまいましたね。もう以前のホームには戻れないですよ。 . . . 」

楠力「そうだよ。介護度が上がるから、その結果をみて退院先を決めることになるよ。しばらく入院が続くそうだから、内服薬を見直してみようか。最近ポリファーマシーが問題になっているからね」

あなた「はい。高齢者に漫然と使いすぎてはいけない薬や、飲み合わせに注意しないといけない薬があると思います」

楠力「そうだね。では、伊賀さんではどうかな？例えば、プロトンポンプ阻害薬はどう？」

あなた「伊賀さんは 1 年前に脳梗塞の既往があり、アスピリンを内服しているので、プロトンポンプ阻害薬の継続は必要ではないでしょうか？」

楠力「プロトンポンプ阻害薬を使っている患者さんは多いけど、実は薬剤耐性菌のリスクになるんだよね」

あなた「え！そうなんですか。知りませんでした」

楠力「伊賀さんみたいに自分でトイレに行けない人は、医療者がおむつ交換をするから、耐性菌がいたりすると他の患者に移しやすくなるんだよ。伊賀さんも耐性菌が出て、抗菌薬を変更したでしょ。院内感染が広がると大変だから、できるだけプロトンポンプ阻害薬はやめたいね」

あなたは、プロトンポンプ阻害薬を使用すると薬剤耐性菌が生じやすくなるのか、調べてみることにしました。